



(C) KYUMAN.ART

鮮やかな色使いに、力強いタッチの筆文字…
香川県に住んでいる、もしくは、訪れたことがある人なら、
どこかで、一度は目にしたことがあるのではないのでしょうか？
これらは全て同じ人の作品です。
その人の名は、和田邦坊。
「香川をデザインした男」とも呼ばれています。

今回は初級編として、“邦坊さん”の人生や、作品について、
学芸員の西谷さんに教えていただきました。



講師の西谷さん

西谷さんは、和田邦坊が初代館長を務めた“讃岐民芸館”がある栗林公園で勤務されていた頃、“邦坊さん”についての展示を企画したことがきっかけで、研究を始められたそうです。
本講座でも、とても丁寧に、その魅力を語ってくださり、“邦坊さん愛”が伝わってきました。

まずは、作品についてのお話。

琴平町出身の和田邦坊。

東京の新聞社で勤めていた時期もありましたが、離れていたからこそ見えてくる讃岐に対しての想いがあったようで、香川の観光地、名勝地、伝説、まつり、文化などをモチーフにした作品が多く残されています。

例えば、県庁の障壁画には、“讃岐の松”として、津田の松原の景色が、また、香川県の観光ポスターには、栗林公園をはじめ、小豆島の寒霞溪や、観音寺の銭形砂絵、五剣山など、数々の観光地が迫力たっぷりに描かれています。

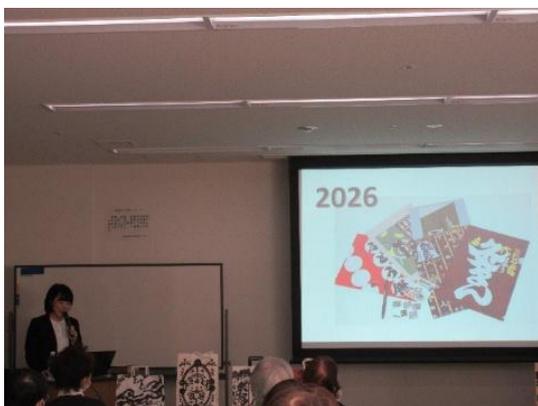


邦坊さんが毎日この場所で働いていたからこそ描けた栗林公園の風景
 (剪定など作業する人も描かれています)
 講師お気に入りの一枚だそうです



色鮮やかで迫力のある筆使いが“邦坊さん”らしさ満載の、香川県の観光ポスター
 何が描かれているのか、探しながら鑑賞すると楽しいです

また、近年では、ラッピングバスや、啓発ポスター、文房具など、邦坊さんのデザインを使用したものも新しく誕生しており、多方面で、その魅力が求められていることが分かります。



続いて、邦坊さんの人生についてのお話。

その中で、邦坊さんと親交が深かった人たちについても、ご紹介いただきました。

棟方志功、猪熊弦一郎、イサム・ノグチなど、世界的アーティストたちからも支持されていた邦坊さん。また、当時の県知事、金子正則氏から招聘され、55歳で“讃岐民芸館”の館長に就任するなど、「香川をデザインした男」と呼ばれるのも、頷けるエピソードです。

更に、広報誌（「月刊香川」・香川県広報課）、教科書（「農業香川」・香川県農業改良普及会）、同人誌（「文芸民族」）など、紙媒体をはじめ、表札の文字をデザインすることもあったそうです。母子手帳や長寿手帳など、香川県民の生活に密着したデザインも手掛けた邦坊さんは、まさに、香川には、なくてはならない存在なのだと改めて感じました。



初めて開催した講座でしたが、早々に、定員いっぱいのお申し込みをいただき、講座終了後も、「先生のお話が分かりやすく楽しかった」「以前から好きなアーティストです。詳しく知ることができました」「どんどん興味がわいてきます」「続編はありますか？」などの嬉しい声をいただきました。

改めて、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。そして、楽しい学びの時間を提供してくださった西谷さん、ありがとうございました。

講座をきっかけに、また新たな世界を知ったり、趣味を見つけていただけたなら、嬉しく思います。